

JENESYS マレーシア文化交流（日本語学習青年招へい）の記録

1. プログラム概要

【目的】マレーシアの日本語学習者が来日し、日本での様々な経験を通して日本をより深く体験します。また、日本人との交流から参加者の日本への関心や日本語の学習意欲を更に高めることで、将来の両国の懸け橋となる人材を生み出すことを目的として実施しました。

【参加者】マレーシアの日本語学習・研究・教育に携わっている大学生 計 10 名

【訪問地・人数】

- プレプログラム（オンライン事前学習）：千葉県 10 名
- 来日プログラム：神奈川県 10 名、東京都 10 名、沖縄県 10 名

【日程】

- プレプログラム（オンライン事前学習）：

12 月 11 日（月曜日） 【来日前オリエンテーション】

【日本理解講義】「日本の魅力」

講師：千葉大学国際未来教育基幹 教授 織田 雄一 氏

来日までの指定期間 【課題学習（動画配信）】「ホームビジット体験」「日本文化理解（京都）」
「広島ピースツアー」「日本語」「日本 ASEAN50 年の歩み」「日本と国連」

- 招へいプログラム：

12 月 17 日（日曜日） 成田国際空港より入国

【来日時オリエンテーション】

12 月 18 日（月曜日） 【テーマ関連視察】横浜市立二谷小学校（公教育と特別支援教育）

【テーマ関連講義】「高齢化社会へ向けた取組み バリアフリー」

講師：国土交通省 総合政策局 バリアフリー政策課

課長補佐 松田 純 氏

12 月 19 日（火曜日） 東京都から沖縄県へ移動

【視察】首里城

12 月 20 日（水曜日） 【テーマ関連講義】

「日本・沖縄の社会福祉の現況と課題／招へい国との比較」

講師：沖縄国際大学 総合文化学部 人間福祉学科 教授 知名 孝 氏

【学校交流】沖縄国際大学

【視察・講義・体験】「サンゴの生態」

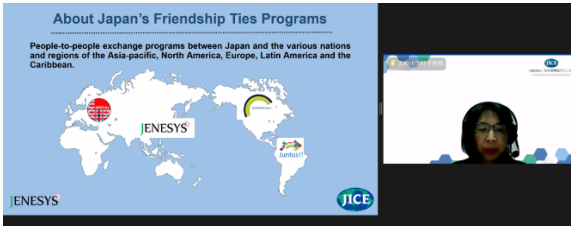
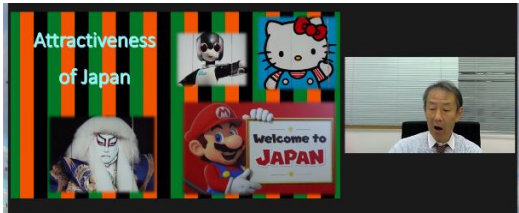
講師：株式会社ナチュラルブルー 代表取締役 星原 貴保 氏

ビーチクリーン活動

- 【ホストファミリー対面式・ホームステイ】
- 12月21日（木曜日） 【ホームステイ】
- 12月22日（金曜日） 【ホストファミリー歓送会】
- 【テーマ関連講義】「琉球の食文化と健康」
- 講師：一般社団法人トータルウェルネスプロジェクトオキナワ
- 大宜見 かおり 氏
- 【文化体験】食育体験
- 【視察】残波岬、おんなの駅 なかゆくい市場
- 【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）
- 12月23日（土曜日） 沖縄県から東京都へ移動
- 【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表
- 12月24日（日曜日） 成田国際空港より出国
- 注：12月11日、12月17日～24日はJENESYS2023 シンガポール社会福祉交流 高校生招へいプログラムと合同実施

2. 記録写真

プレプログラム（オンライン事前学習）

	
12月11日【来日前オリエンテーション】	12月11日【日本理解講義】「日本の魅力」

招へいプログラム

	
12月18日【テーマ関連視察】 横浜市立二谷小学校	12月18日【テーマ関連講義】 「高齢化社会へ向けた取組み バリアフリー」



12月19日【視察】首里城



12月20日【学校交流】沖縄国際大学



12月20日【視察・講義・体験】
株式会社ナチュラルブルー、「サンゴの生態」、
ビーチクリーン活動



12月20日～21日【ホームステイ】



12月22日【ホームステイ歓送会】記念撮影



12月22日【テーマ関連講義】
「琉球の食文化と健康」



12月23日【報告会】グループ発表



12月23日【報告会】記念撮影

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学生

横浜国立二谷小学校の視察で、最も印象深かったのは、作品や活動を掲示していたことで、これは学業成績だけでなく、子どもたちの人格形成にも焦点を当てています。自分が努力して作り上げた成果物が、皆に見えるかたちで掲示されることで、努力や情熱を形ある証拠として残すことになります。

この認識は自己肯定感や自信を高め、学業や創造的な探求を続ける原動力となり、好循環を生み出すことができます。

◆ 大学生

今回のプログラムで最も印象的だったのは、日本のバリアフリーの取組みに関する講義です。日本のインクルーシブな社会について、洞察に満ちた知識を得られ、目から鱗が落ちるような時間でした。このような取組みは他の国にもありますが、日本は、手続きが非常に機能的かつ体系的であるため、バリアフリーへの取り組みが社会の奥深くまで浸透していました。

◆ 大学生

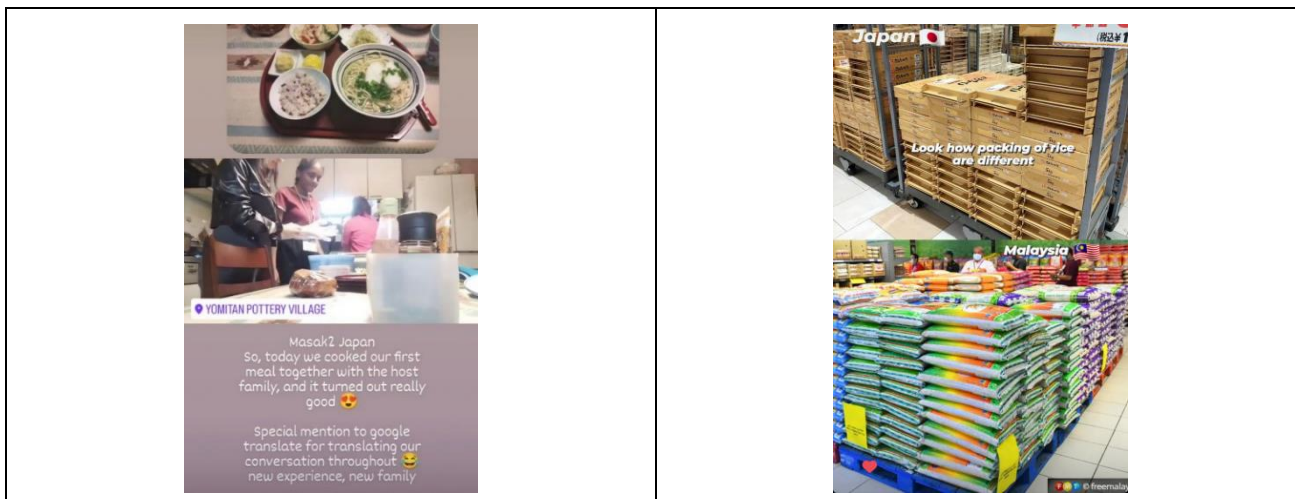
最も印象的だったのは、地方でのホームステイです。マレーシアとは全く異なる独特の暮らし方に魅了されました。日本では、鶏肉などの肉類よりも、野菜や魚を多く食べることを目にしました。また、マレーシアにはない黄色や紫色、オレンジ色をしたイモなど、日本の植物について楽しく学びました。ホストファミリーの畑で採れた食材を使って、お餅を作る機会があり、とても美味しくできました。またこのような機会があれば良いと思います。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 講師

参加者の皆様が日本のバリアフリーの取り組みについて高い関心を持たれ、質疑応答の際も色々質問頂き、小職にとっても、とても有意義な時間でした。またこのような機会がありましたら、より興味関心をもって聴講頂けるような説明ぶりや、資料を準備して、参画させて頂ければ幸いです。

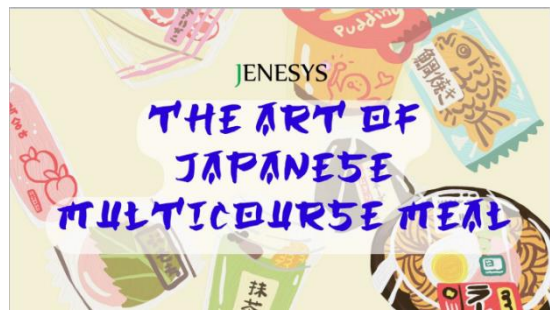
5. 参加者の対外発信（抜粋）



2023 年 12 月 21 日 (Instagram) 今日はホストファミリーと一緒に初めての食事を作りました。とても美味しかったです。 特筆すべきは、新しい経験を得るために新しい家族との会話で、Google 翻訳を使ったことです。	2023 年 12 月 21 日 (Instagram) 日本とマレーシアのお米の包装の違いに着目して下さい。
--	---

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地: 東京都、神奈川県、沖縄県 全 2 グループの発表一例

	
【訪日中の学び】 ごみ分別、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の導入、食べ残しの活用、SDGs、心のバリアフリーについて学びました。 【教育の学び】 環境教育と統合教育について学びました。 【アクション・プラン】 「グリーン、レッツゴー！」 参加者の各キャンパスで 2024 年 2 月 9 日に、各 30 名の参加者を対象として、SDGs についての簡単な講義の後、植樹プログラムを実施します。	【訪日中の学び】 バリアフリー政策、海洋環境、沖縄の食文化と健康について学びました。 【教育の学び】 横浜市立二谷小学校の視察、沖縄国際大学での交流を通して、教育について多くを学びました。 【アクション・プラン】 「日本のフルコース料理の美」 参加者の各キャンパスにて 100 人～1,100 人の学生を対象に、2024 年 1 月に、日本のフルコース料理やテーブルマナーについて資料を作成し、ワークショップで伝えます。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター(JICE)